

喜志西遺跡

— 共同住宅の建設に伴う発掘調査報告 (KSW2016-1) —

2019.03.31 富田林市教育委員会

1. はじめに（図1・2）

喜志西遺跡は、富田林市域北部に位置し、近鉄長野線喜志駅の東西に広がる、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。喜志駅の東側では、府道美原太子線喜志バイパスの建設および共同住宅の建設などで多数の調査が実施され、弥生時代中期の方形周溝墓群などが見つかっている。この方形周溝墓群は、喜志西遺跡の北東に位置する喜志遺跡に存在した弥生時代中期集落の墓域であったと考えられる。

今回調査地のすぐ北側で実施された市 1993・1997・2000 年度調査地と府 1993 年度調査地では、

合計 4 基の方形周溝墓が検出された。市 1991 年度調査地以南で方形周溝墓は見つかっておらず、この 4 基が、南北約 250m にわたって細長く連なる方形周溝墓群の南限と考えられてきた。

今回調査地は、府道バイパス建設以前は水田地であり、バイパス建設以降は盛土され、長らく駐輪場として用いられてきた。共同住宅の新築計画が届出され、建物基礎の掘削が造構面に到達する見込であったため、事業者様のご協力のもと、発掘調査を実施することになった。

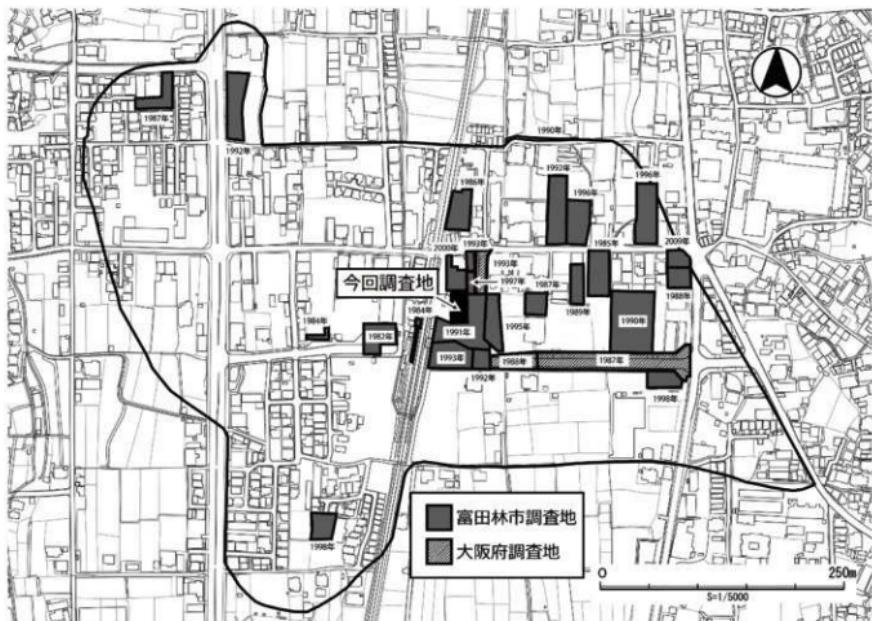


図1 調査地位置図

2. 調査の方法と基本層序（図3・4・5）

排土置場・搬出の都合から、建物予定地を2区（北側1区、南側2区）に分けて調査した。調査開始時に1区北端で試掘を行い、堆積状況を確認した。その結果、マンガン粒が認められる褐色砂質土(GL-1.8m～1.9m)を既往調査から中世包含層と判断し、その下面を第1遺構面とした。また、GL-1.9mで浅黄色礫混砂質シルトを確認し、灰黃褐色粘質シルトの溝状落込を検出したことから、浅黄色礫混砂質シルト層上面を第2遺構面とし、調査区ごとに2面調査を実施した。

基本層序は、I層(盛土)、II層(旧耕作土)、III層(中世包含層)、IV層(古墳時代以前)、V層(地山)の順である。

3. 遺構と遺物

Ⅲ層(中世包含層、図5)

遺物の出土量は、今回調査全体でもコンテナ半分にも満たないが、その大半がⅢ層から出土している。サヌカイト剥片、須恵器、土師器に混じって微量の瓦器片が見られることから、中世に形成された層と判断できる。

第1遺構面(図3、写真1・2)

1区で溝2基、ピット25基を検出した。2区では溝5条、土坑1基、ピット3基を検出した。いずれの遺構からも遺物は出土していない。南端で検出した幅1.1m深さ0.1mの溝は、市1991年度調査地南西側の溝1から続くもので、今回調査地内で東に折れ、市1991年度調査地東側手前で終わると思われる。

IV層(古墳時代以前、図5)

第1遺構面以下を人力で掘り下げるが、IV層内からはサヌカイト剥片数点が出土したに過ぎず、時代を判断することはできない。府1987年度調査では西側地山面上の不定形土坑を古墳時代以前としていることから、その解釈に倣うものとする。

第2遺構面(図4・5、写真3・4)

調査区の南西から北東にかけて、灰黃褐色粘質シルトを埋土とする溝状落込を検出した。落込の西肩はほぼ直線状であるが、東肩は一段下がり、入り組んだ輪郭となる。落込の東側遺構面は黄色砂質土の地

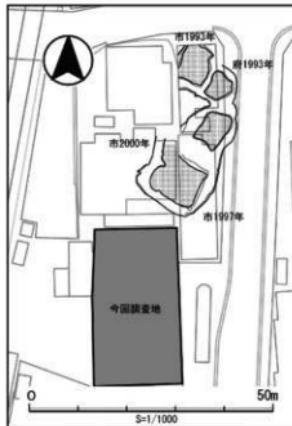


図2 方形周溝墓位置図

山であるが、西側遺構面は浅黄色礫混砂質シルト、落込の直下は灰白色粘質シルト層である。このことから、落込以西は自然流路の一部と判断でき、落込埋土の灰黃褐色粘質シルトは、流路埋没後に滞水した沼状地形が形成された痕跡である。北接する市2000年度調査地では、この流路の継ぎが検出されている。

2区の南東隅付近では不整形土坑5基・ピット2基を検出した。同様の不整形土坑は、今回調査区南側の市1991・1992・1993年度調査地、南東側の府1987・1988年度調査地でも多数検出されている。今回調査では遺物は出土しなかった。形状と遺物出土状況から判断すると、これらの不定形土坑は植栽痕であり、人為的なものではないと考える。府1988年度調査地では不定形土坑から6世紀中葉の須恵器が出土しているが、根のかく乱によって上層の遺物が混入した可能性を考慮すべきであろう。

4.まとめ(図2・4)

今回調査地で弥生時代の遺構は検出されず、市1997・2000年度調査地で検出された方形周溝墓が、方形周溝墓群の南限であることを再確認した。

また、既往調査で多数検出された地山面上の不定形土坑について、植栽痕の可能性があることを確認した。

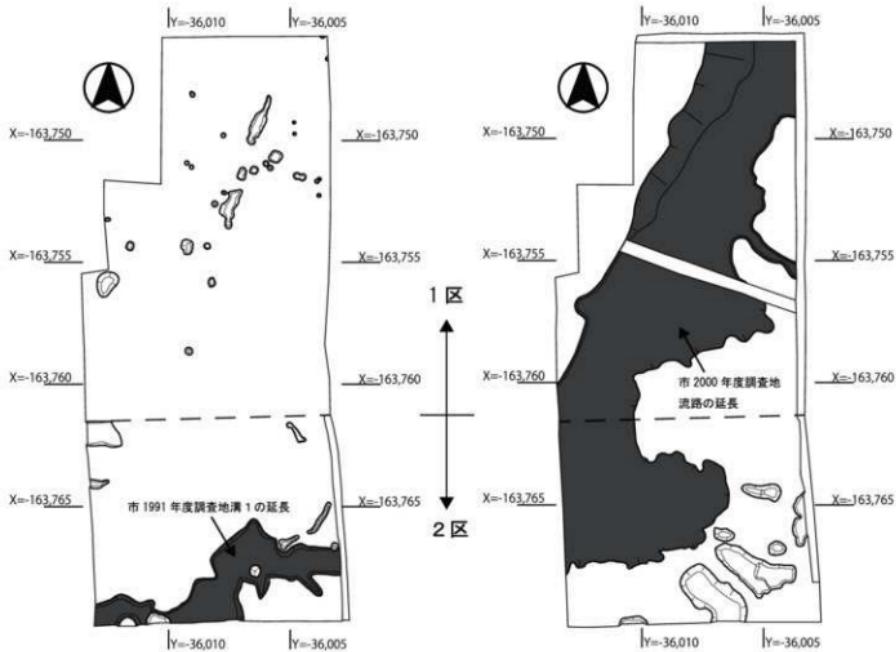


図3 第1遺構面平面図 (S=1/200)

図4 第2遺構面平面図 (S=1/200)

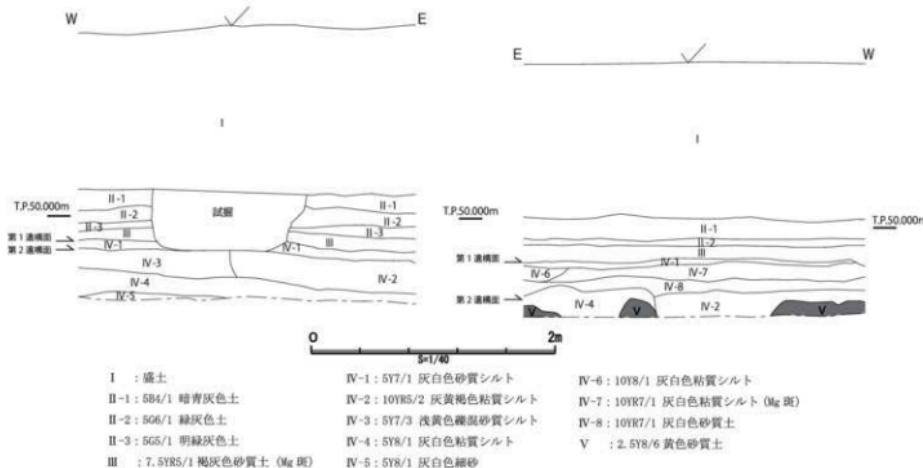


図5 壁面図 (左図：北壁、右図：南壁、S=1/40)



写真1 1区第1遺構面 完掘状況（南から）



写真2 2区第1遺構面 完掘状況（北から）



写真3 1区第2遺構面 完掘状況（北から）



写真4 2区第2遺構面 完掘状況（北から）

参考文献

大阪府教育委員会「喜志西遺跡発掘調査の記録」『第・番・仙』第38号、1984年
 「喜志西遺跡発掘調査概要」1988年
 「喜志西遺跡発掘調査概要Ⅱ」1990年
 「喜志西遺跡発掘調査概要Ⅲ」1994年

富田林市遺跡調査会『喜志西遺跡』1997年
 『喜志西遺跡Ⅱ』2000年
 富田林市教育委員会『喜志西遺跡発掘調査概要Ⅱ』1993年

報告書抄録

ふりがな	きしにしいせき						
書名	喜志西遺跡						
副書名	共同住宅の建設に伴う発掘調査報告(KSW2016-1)						
シリーズ名	富田林市文化財調査報告						
シリーズ番号	66						
執筆者名	林 正樹						
執筆機関	富田林市教育委員会						
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 TEL 0721-25-1000(代)						
発行年月日	2019(平成31)年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	発掘面積 (m ²)	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
きしにしいせき	さんばゆもししきょうまんちゅうね	27214	2	34°	135°	20170105 ~ 20170310	380 共同住宅の建設
喜志西遺跡	富田林市喜志町三丁目			52'	60'		
31"	77"						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
喜志西遺跡	集落跡	中世	土坑、溝、ピット	須恵器、土師器、石器			